

# 教養体育の教員採用と初任者養成に関するアンケート結果(速報)

2012年7月30日

(社)全国大学体育連合

大学体育関連情報調査チーム

代表 小林勝法(文教大学)

kappo@shonan.bunkyo.ac.jp

**調査目的** 近年では、大学体育教員になる者の経歴が多様化している。教員免許を取得していない者や、学士課程で体育を専攻していなかった者が大学の体育教員として採用されるケースが増えてきた。体育教員免許取得に必須の教育（様々なスポーツ実技指導ができるような教育や、体育に関する幅広い学問領域の教育）を受けていない者が体育教員になった場合、数多くの不安を抱えたまま、授業担当を開始することになり、大学体育教育の質保証の観点から、決して小さな問題ではない。

他方、採用する側では、大学教員の定員数の減少や高齢化などによって、従来のように先輩教員が細々としたことを指導する機会が減っている。このようなことから教養体育の分野別FDの必要性が増してきている。そこで、教養体育の担当教員の採用実態と研修に関するニーズを把握することを目的としてアンケート調査を行った。

**調査対象** 446 大学・校舎(入学定員が 301 人以上)

101 短期大学(入学定員が 251 人以上)

**調査実施期間** 2012年3月～5月

**有効回答数** 118 大学・校舎(回答率 26%)、23 短期大学(回答率 23%)

**調査方法** アンケート用紙を送付し、ファックスかメールで回答していただいた。

## 1. 回答者の所属機関

国公立大学	23 校
私立大学	95 校
国公立短期大学(部)	23 校
合計	118 校

## 2. 回答者の身分・職務

回答者の身分・職務は以下の通りで、体育担当教員が 112 人で 87.1%である。

身分	国公立大学	私立大学	短期大学	合計
体育担当教員	19	75	18	112
体育以外の科目担当教員	1	5	2	8
事務職員	2	13	3	18
その他	0	2	0	2
合計	22	95	23	140

3. 所属する機関で教養体育を担当している専任教員数(同一校舎のすべての学部や学科、  
 期限付き含む、4月1日現在)

専任教員数の平均値と中央値、範囲は以下の通りである。私立大学は範囲とばらつきが大きい。

専任教員数	平均値	中央値	範囲
国公立大学 (n=22)	8.1	7.0	1~23
私立大学 (n=93)	4.9	3.0	0~43
短期大学 (n=21)	1.5	1.0	0~4

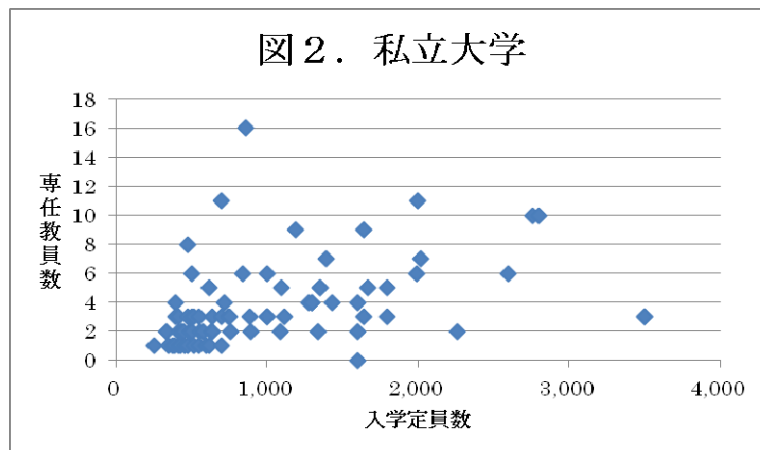
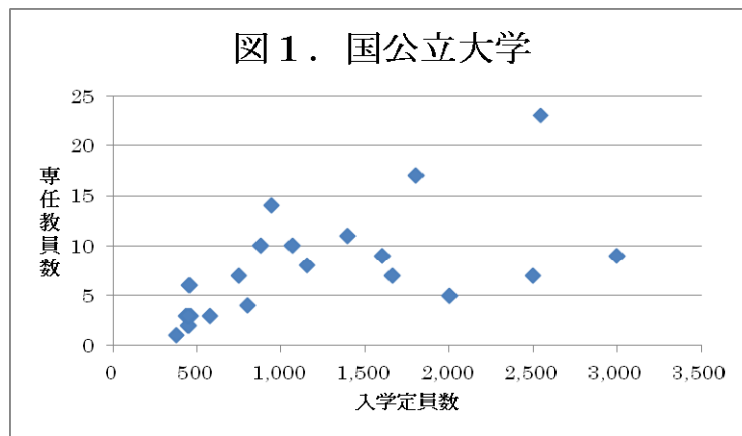
4. 所属する機関の教養体育を担当している非常勤教員数(同一校舎のすべての学部や学科)  
 (4月1日現在)

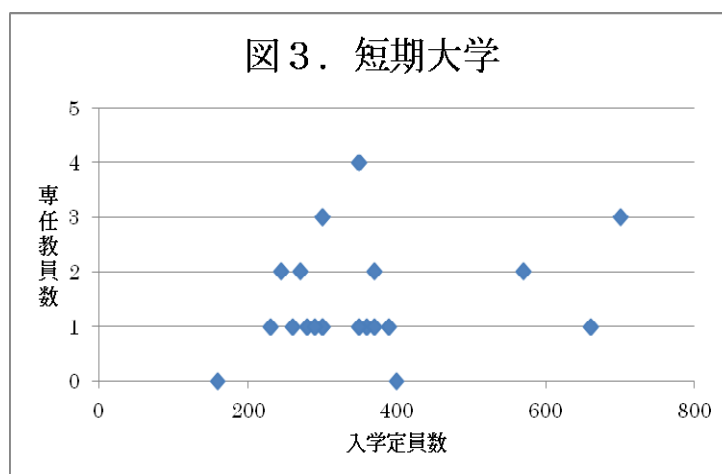
非常勤教員数の平均値と中央値、範囲は以下の通りである。

非常勤教員数	平均値	中央値	範囲
国公立大学(n=22)	6.4	5.5	1~15
私立大学(n=93)	7.6	6.0	1~40
短期大学(n=21)	2.5	1.5	0~18

5. 所属する機関の入学定員数と専任教員数 (4月1日現在)

入学定員数と専任教員数の散布図は以下の通りである。





### 6. 教養体育の担当専任教員の採用募集の方法

教養体育の担当教員を採用する場合の募集方法は以下の表の通りである。最も多いのは、「自校ホームページにて公募する」で79校（57.2%）で、次いで、「JREC-IN(研究者人材データベース)にて公募する」で66校（47.8%）である。私立大学と短期大学は、「公募するかどうかは状況により異なる」も多く、それぞれ33校（34.7%）、10校（47.6%）である。「公募はしない」との回答は、国公立大学ではなく、私立大学8校、短期大学が1校である。「全国大学体育連合ホームページにて公募する」は私立大学で24校（25.3%）と比較的多い。

公募方法	国公立大学	私立大学	短期大学	合計
n=	22	95	21	138
自校ホームページ	19	49	11	79
JREC-IN	12	43	11	66
全国大学体育連合ホームページ	5	24	1	30
体育系大学院などに郵送	10	19	0	29
その他の方法	0	7	0	7
公募しない	0	8	1	9
公募するかどうかは状況による	0	33	10	43

## 7. 教養体育の担当専任教員の採用条件として重視する事項

採用条件としてどの程度重視するかを5段階で回答してもらった。その平均値は以下の表の通りである。採用条件として重視するのは「研究業績」と「専攻領域」で、3番目として、国公立大学では「博士の学位」(4.0)、私立大学と短期大学では「実技の指導力・実績」(ともに4.1)である。

採用条件	国公立大学		私立大学		短期大学	
		n=		n=		n=
博士の学位	4.0	23	3.8	90	3.0	19
研究業績	4.3	23	4.2	92	4.1	21
研究の専攻領域	4.4	23	4.1	91	4.1	21
高等教育機関での教育経験	3.4	23	3.7	88	3.9	21
実技の専門種目	3.7	23	3.9	91	3.8	21
実技の指導力・実績	3.8	23	4.1	90	4.1	21
TAの経験	2.5	23	2.5	89	2.7	21
FDや実技研修会などの参加実績	2.6	23	2.6	89	3.0	21
保健体育の教員免許	3.2	23	3.3	88	4.0	21
幅広い専門教養	3.3	23	3.5	88	3.8	21
教育に関する知識と教養(教職教養)	3.4	23	3.6	91	3.9	21
課外スポーツ活動指導能力・意欲	3.3	23	3.6	89	3.8	21

## 8. 教養体育の担当専任教員の選考方法

教養体育の担当専任教員の選考方法としては、ほぼすべての大学で面接を行い、私立大学のほとんどは模擬授業を課している。選考方法として最も多いのは、「面接」(134校、98.5%)で、その次は「教養体育に対する抱負を書いた書面(教育一般ではなく教養体育について)」(82校、60.3%)である。私立大学では、「模擬授業」(36校、38.7%)と比較的高い。

選考方法	国公立大学	私立大学	短期大学	合計
n=	22	93	21	136
推薦書	9	32	5	46
応募者の照会先・推薦者氏名	8	27	6	41
教養体育に対する抱負を書いた書面	13	56	13	82
面接	21	92	21	134
模擬授業	4	36	2	42
研究に関するプレゼンテーション	8	23	3	34

## 9. 教養体育の教員研修

教養体育の教員研修に関して、「FDや実技研修会への参加経費は研究費が使える」(111校、79.9%)で、次いで、「初任者教員に対して個人的あるいは組織的に指導・助言する体制や雰囲気がある」(73校、52.5%)である。私立大学では、「FDや実技研修会への参加経費は研究費のほかに使える公費がある」が37校(40.0%)と比較的高い。

「教養体育に関するFD研修会や授業研究会を非常勤講師も含めて行っている」は20校(14.4%)である。

教員研修費	国公立 大学	私立 大学	短期 大学	合計
n=	23	93	23	139
FDや実技研修会への参加経費は研究費が使える。	14	79	18	111
FDや実技研修会への参加経費は研究費のほかに使える公費がある。	8	37	3	48
初任者教員に対して個人的あるいは組織的に指導・助言する体制や雰囲気がある。	12	49	12	73
教養体育に関するFD研修会や授業研究会を非常勤講師も含めて行っている。	6	12	2	20
その他	0	2	2	4
いずれも無い。	3	3	2	8

## 10. 全国大学体育連合の事業

全国大学体育連合の事業については、「『大学体育』や『大学体育学』などを閲覧したことがある」が最も多く102校(72.3%)である。

大体連事業	国公立 大学	私立 大学	短期 大学	合計
n=	23	95	23	141
大学体育指導者研修会(全国・支部)に参加	17	58	13	88
『大学体育』や『大学体育学』などを閲覧	19	67	16	102
メールニュースの「DAITAIREN 情報」を受信	8	38	5	51
全国大学体育連合に加盟	15	69	11	95
いずれも無い。	2	16	4	22

## 11. 教員採用や教員研修についての意見

・教養体育専任の教員採用は難しい。専門科目との抱き合わせとなる。また、昔の教養部のように教養体育をオーガナイズする特定の部署とか専任の枠を設けないと益々、弱体化してしまうと考えている。(国公立大学)

・採用に関して、「体育連合」が後押しできるような制度ができないものかと考える。(国公立大学)

・採用後に研究を積めるか(環境にあるか)ということも採用時に重視すべきと本学では考えております。(私立大学)

・体育に対する大学の将来的なビジョンが明確でない。教員の高齢化にともない漸減している教員数を補足した実績が全くない現状である。(私立大学)

- ・教養体育に非常勤が多く、特任教員（期限付）を配置し行っております。（私立大学）
- ・年齢的に研究を中心に行わなければならない時期があるが、学生と触れ合う時間が少なすぎる。体育教員の最大の特徴はスポーツ（体育）を通して、学生と直接コミュニケーションできる場所である。他の学部教員には足りない所である。これから就職を希望する学生に強く、以上の点を期待する。（私立大学）
- ・実技指導力を高めること（1種目ではないこと）、教養があること、研究能力を高めること。（私立大学）
- ・体育は一人であり、保育関連の教科も兼任しているので、保育関連の研修に追われ、教養体育の方がどうしても手薄になっていると反省しているところです。実情では教員採用は考えられないので、教員研修を充実させていただくことに期待します。場所の問題…自費なので関東あたりまでなかなか行けません。ビデオ教材（フットサル）は大変役立ちました。（短期大学）

以上